

北清事変（義和団事件）におけるフランス軍負傷者への救護活動

— 1900年 広島での博愛精神 —

フランスが艦艇派遣などによりインド太平洋への関与を一層深めた令和3(2021)年11月、1900年北清事変におけるフランス傷病者のうち広島に後送され死亡した7名への在京都フランス領事館総領事、国防武官補佐官らによる慰霊追悼式が広島市南区の比治山陸軍墓地において実施され、埋葬された経緯等を示した説明板が設置された¹。



図1：フランス軍人の記念碑（筆者撮影）

明治33(1900)年、中国(清)において生じた義和団の蜂起を契機とした北清事変では、自国民保護のため8か国(英露仏独米墺伊日)が連合して出兵し、欧州諸国が東アジアで大規模な連合作戦を行なった最初の例となる。我が国にとっても日清、日露戦争の中間点の出来事として重要であり、欧州諸国がインド太平洋への関心を深めつつある情勢下でこれを振り返ることは、いささかの意義を有するものである。北清事変に関しては、外交史、軍事史上の研究の関心は、主として北京及びその周辺での戦闘経過や連合作戦の遂行に焦点が当てられている²。

本稿においては、これまでこれらの分野では関心が向けられてこなかった後方支援、医療面に関してフランス傷病者を、当時の日本陸海軍及び日本赤十字社さらには広島県、市が博愛精神により連携して救護した事例を紹介する。

¹ 小林可奈「比治山に眠る仏兵士知って —北清事変で死亡の七人 説明板設置—」『中国新聞』2021.11.21 <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=112785>; フランス側からは、慰霊祭に参列した国防武官補佐官 ニコラス・ピエルソン(Nicolas Pierson)中佐による記事が発信されている。Nicolas Pierson, “Japon – Tombés au pays du Soleil Levant,” *Le Souvenir Français de Chine*, 13, Jan 2022, <https://souvenir-francais-asie.com/2022/01/13/japon-tombes-au-pays-du-soleil-levant/>.

また、同じ敷地内には、第一次世界大戦中の1918年に似島ドイツ俘虜収容所で病死したオットー・パペ(Otto Pape)の墓碑がある。

² 国内での研究には、大塚海夫「北清事変における海軍連合作戦—「列国海軍指揮官会議」の果たした役割を中心として—」『国際安全保障』2018年46巻2号、107-124頁；川野暁明「北清事変における連合作戦と日本の対応」『軍事史学』第22巻第4号、1987年3月、2-15頁；単著としては、斉藤聖二『北清事変と日本軍』芙蓉出版、2006年などが挙げられる。

傷病者の後送

北清事変が生じた際の欧州主要国の置かれた環境や動向を確認すれば、南アフリカ戦争の最中、イギリスは更に東の彼方である東アジアに多くの兵力を割くことができず、帝国政策をめぐって衝突することの多かったフランスやドイツもすぐには、極東に大量の兵力を動員することはできなかった³。このようなことから、日本は、地の利もあり、広島に所在した陸軍第五師団を基幹とした約2万人の兵力を派出していた。

死傷者が増え始めた明治33(1900)年6月27日、当時、病院船を管理していた日本赤十字社から病院船「博愛丸」の派遣を陸海軍大臣に対して上申があり、両大臣は、陸海軍の監督下で運用することを了承した⁴。この際、日赤社長からは同時に赤十字社本来の創設理念である博愛主義に基づき、諸外国の傷病者も受け入れることが上申されており、この件も含めて6月29日、山本権兵衛海軍大臣から海軍の現場指揮官である東郷平八郎常備艦隊司令長官に細部にわたる指示が出されている⁵。

これにより東郷は現地で各国の指揮官に後送の要のある傷病者の有無を確認した結果、フランスから要望があった。フランスが日本での傷病者治療を要望した背景には、中国大陸における権益が十分になく、勢力下にあったベトナムも遠く、現実的な後送拠点を有さなかったことによる⁶。

広島での救護活動

現地での調整の結果、フランス軍負傷者を博愛丸をはじめとする日本の病院船によって後送することとなり、赤十字社は、患者を広島で救護することを陸軍大臣に願い出て陸軍は、広島予備病院の一部を赤十字社に貸与することとし、赤十字社の医療スタッフが、陸軍衛生部の指揮下で業務を遂行するという連携態勢が確立されることとなった⁷。

7月に入って広島の陸軍予備病院において、傷病者の受け入れが開始されたが、当時の記録によれば、陸軍の医師、衛生員、赤十字社職員、広島県及び市職員さらには民間の有志の人々は、日本軍の傷病者と分け隔てなく接したとされている⁸。その様子は、フランス側の史料にも記録が残されている。この事例を長年にわたり研究してきた原野昇氏の文献によれば、フランス国防史料館(Service historique de la Defense)所蔵の「渤海湾(1900年6-8月)における軍事行動中の保健部隊の医療業務報告抜粋」においては、「広島病院の設備は病院として理想的なものであり、徐々に我が国の傷病者専用になっていったとのことである。

³ 君塚直隆『近代ヨーロッパ国際政治史』有斐閣、2010年、298-299頁。

⁴ 病院船の運用に関しては、防衛研究所所蔵の「清国事件書類編冊 明治33年07月 臨密」における一次資料のほか、日本赤十字社編『日本赤十字社史稿』日本赤十字社、1912年を参照

⁵ JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C08010016300、海軍 博愛丸太沽へ派遣の件 (防衛省防衛研究所)

⁶ 原野昇「フランス側史料にみるフランス傷病兵日本後送の経緯」『仏蘭西学研究』(43):2017.6、15頁。

⁷ JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C08010177000、「清国事変戦史附録 第3 人馬衛生業務秘 明治33年」(4) (防衛省防衛研究所)

⁸ JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C13120542100、清国義和団匪事変に関する広島地方状勢一班 (第1) 明治33年 (防衛省防衛研究所)

帝国政府はその病院にドイツの大病院で教育を受けた最良の外科医を派遣した（中略）我が国の傷病者は到着直後から、天皇の侍従武官、皇后の高級女官をはじめ、日本赤十字社の代表、地元県市のほとんどすべての代表の見舞いを受け、各方面からの見舞いの贈答品をもらった。」とするなど、日本側の対応への深い感謝の念が、「我が近代文明が誇りとする人類愛に基づく連帯の精神を日本人ほど忠実に実行に移した国民はヨーロッパにはない。」との最大級の賛辞により示されている⁹。

また、病死者の葬儀にあつては、毎回約 300 名の会葬者が丁寧に弔い、在日のフランス武官や患者の引率将校から深い感謝の念が伝えられた¹⁰。

記念碑・墓碑の建立

9月に入り、傷病者の治療が完了するとともに亡くなった7名に対する記念碑の建立が進められることとなった。フランス公使館付武官は、広島に再度、赴き各種の調整を行い¹¹、さらには当時の在日フランス人と戦没者等を慰霊顕彰する団体である *Le Souvenir Français* 協会とが協力して広島市の比治山陸軍墓地に記念碑及び墓碑が建立された¹²。

翌年には、フランスが鹵獲した清国軍の砲六門を巡洋艦ギシャンにより広島に輸送し、慰霊碑の側への設置が計画された¹³。このように戦利品を寺社や墓地に慰霊などを目的として設置することは、日清戦争の頃から行われたことであった¹⁴。この際の砲は、現存しないが、こうした戦利品の多くは、後に戦争激化による資材確保に供出されるか終戦直後に処分されており、いずれかの処理がなされたことは想像に難くない。

いずれにせよこれらの記念碑等の設置に際しては、日仏間の協力が不可欠であり、病死者に対する慰霊顕彰にあつても日仏共同での作業が実施されていたこととなる。これにより、日仏の友情を象徴する施設となった。第二次世界大戦中に敵対関係となった国の軍人墓碑には、不幸にも投石などの被害にあつた例もあるが¹⁵、この墓碑には、そのような形跡はなく、100年以上もの間、大切に守られていった。

⁹ 原野「フランス側史料にみるフランス傷病兵日本後送の経緯」15-19頁。

¹⁰ 前掲「清国義和団匪事変に関する広島地方状勢一斑（第1）」

¹¹ 一般的には、「慰霊碑」の名称で表される性質の建築物であるが、史料に基づき、当時から用いられた「記念碑」の表現とする。「JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C04013776000、仏国公使館付武官広島へ下向の件（防衛省防衛研究所）」

¹² 「Le Souvenir Français 協会について」Le Souvenir Français 協会、<https://home.hiroshima-u.ac.jp/nharano/Souvenir%20Francais.pdf>。

¹³ JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C10127368400、34年4月26日 仏国巡艦ギシャン号宇品港へ入港の件（防衛省防衛研究所）

¹⁴ 籠谷次郎「日清戦争の「戦利品」と学校・社寺--その配付についての考察』『社会科学』（通号 56）1996.01、1-45頁。

¹⁵ 一例として、広島県呉市海軍墓地の1907年広島湾で殉職した英国水兵の墓は、対英感情の悪化により投石などの被害を受け、海軍呉鎮守府は、檻を設置しこれを守った。

フランス世論の変化

北清事変勃発当時の日仏関係及びフランス国内の対日感情は、日清戦争後の日本の権益拡張に対抗した三国干渉のうちの一国がフランスであり、中国大陸での利害関係に競合があったことや一般的に欧州諸国は、日本の勢力拡張を警戒していたこともあり、必ずしも良好ではなかった。いわゆる黄禍論が欧州に渦を巻いており、日本の出兵についても世論は黄禍論を盾に圧倒的に反対していた¹⁶。

また、前述したように、遠く極東に多くの兵力を動員できなかった欧州諸国に対し、日本は、地の利もあり、広島に所在した陸軍第五師団を基幹とした約2万人の兵力を派出したことにより、事態終結後の交渉における日本の発言力の大きさが警戒され、陸軍大臣桂太郎も疑念を晴らすための早期の撤兵などを計画していた。

ところが、9月に入り在仏公使は、一転して世論の好転を外務大臣に伝える。報道をもとに「日本国に関する語調に極めて良好なる変更を来したるを報告するは欣喜に堪へざる所なり我将来の態度に就き欧州の猜疑若くは嫌悪を誘発せんとする如き論説及記事は最早其跡を絶ち極東に関する欧州会議に日本国の加入せるは既成の事実となれり」としている¹⁷。

この対日感情変化への本事例の影響を考察する。前述したフランス側の報告書の作成者及び期日は、原野氏の文献によれば不明であるが、標題からは、8月までの記述が想起され、当時の郵便事情からすれば、本報告書自体が送達されたことによる対日世論への影響は考えにくい。

また、傷病者には、本国への郵便も認められていたが、広島到着直後の発送であれば、本国に9月までに日本側に好意的な内容の手紙が家族宛に到着し、世論好転に影響を与えた可能性は、否定できない。

他方、本国への電報による報告という点では、フランス公使館付武官は、7月に広島に赴いており¹⁸、現地で状況を確認することで報告書の作成者とも認識を共有し、日本への好意的な内容を北京のフランス軍指揮官や本国に電報で送信していた可能性がある。これにより、9月時点でのフランスでの対日感情好転に影響を与えた可能性は、否定できない。

以上、フランス傷病者への救護活動について紹介したが、最後に今後の日仏での調査研究の進捗によっては、この事例に対する評価に変化が起り得ることを指摘したい。

当時の日本外交は、不平等条約の改正を大きな目標としており、そのために先進国として認められるための人道主義の発揮や国際法の遵守がなされていたことは、後の日露戦争、第一次世界大戦におけるロシア、ドイツ捕虜への人道的な取り扱いに通じるものがあり、これらの事例との連続性から検討されていく可能性がある。

¹⁶ 川野「北清事変における連合作戦と日本の対応」11頁。

¹⁷ JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.B02031934900、2. 仏国/3 明治33年9月16日から明治33年10月30日 (A-6-1-5-3_4_2_001) (外務省外交史料館)

¹⁸ 前掲「清国義和団匪事変に関する広島地方状勢一斑 (第1)」

日露戦争後、欧米列強は日本に置いていた公使館を大使館に昇格させ、一等国として処遇するようになっていくが、ロシア捕虜への人道的対応を文明国の証として積極的に宣伝し、国際世論の日本に対する支持につながっていったものと考えられている¹⁹。

この後年の事例との連続性という点では、陸軍大臣として、救護活動を監督していた桂太郎を介するものが想定され、現場の医師からその状況を詳細に報告された記録が残されており²⁰、本事例により列国に追い付くための人道主義への認識を深め、第一次世界大戦に至る期間、いわゆる桂園時代として西園寺公望と交互に首相の座にあったことで、捕虜への人道的な待遇への潜在的要素となったことも想像し得るものである。

また、黎明期の日仏交流は軍事面では主として、日本陸軍がフランス陸軍を範としたことやヴェルニーによる技術指導などのフランスから学んだ事例から語られることが多かったが、日本の発展により、フランスとあらゆる面で肩を並べる存在となったことでフランスとの共同という事例として評価されていく可能性がある。

日仏関係が安全保障という点では、インド太平洋を舞台に新たな局面で進捗しようとする昨今、重みを増していく歴史的事例と考えられ、比治山に眠る7名のフランス軍人は、日仏関係の進展、研究の進捗を静かに見守り続けるであろう。

(海上自衛隊幹部学校 戦史統率研究室 本名 龍児)

(本コラムに示す見解は、海上自衛隊幹部学校における研究の一環として執筆者個人が発表したものであり、防衛省・海上自衛隊の見解を表すものではありません。)

¹⁹ 五百旗頭薫、奈良岡聰智『日本政治外交史』放送大学、2019年、94頁。

²⁰ JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C08010032000、医務 外国傷病者食餌名称印刷の件 (防衛省防衛研究所)